

センタートピックス

複十字シール運動募金

複十字シール運動開始前に青森県知事を表敬訪問

8月1日から始まる「複十字シール運動」にあわせ、7月29日（月）青森県結核予防婦人会と当センター代表が宮下県知事を表敬訪問しました。青森県結核予防婦人会の外崎れい子会長は、「70歳代以上の高齢者と20歳代の若い外国出生者の結核対策が重要な課題です。今後も根絶に向け正しい知識の普及に取り組みますので、引き続きご支援をお願いします」と話し、複十字シール運動への協力を依頼しました。



ワンコインワンユニフォーム着用で表敬訪問しました。



ワンコインワンユニフォームを贈呈しました。
(左から濱邊副会長、外崎会長、宮下知事、川村副会長)

街頭募金活動実施しました

9月24日～30日の結核・呼吸器感染症予防週間中の9月28日（土）青森市内ショッピングセンター2カ所で募金活動を実施しました。

青森県結核予防婦人会の方々とともに募金の協力を呼びかけ、

56,614円（二会場合計額）の御協力をいただきました。

たくさんの御協力ありがとうございました。



NOBORI ご利用ください

この度、医療情報管理 PHR アプリ「NOBORI」※を導入しました。スマートフォンからいつでもどこでも健康診断・人間ドック健診の結果を確認できます。

ご利用にあたりましては、健診結果同封チラシか、各施設の案内チラシをご確認ください。

※NOBORI とは、健康診断結果をご自身のスマートフォンからいつでもアクセス可能なあたらしいサービスです。
※「予約の確認」は一部健診では対応していません。

いつでもスマートフォン
からチェック



専務理事就任のお知らせ

2024年7月から青森県総合健診センターに参りました石橋豊と申します。皆さまには、日ごろからご尽力とご支援を賜り、改めて感謝申し上げます。

正直に申し上げますと、私は保健・医療・福祉行政は全くの素人であり、青森県庁業務37年間、主にバス・鉄道・航空機等の地域交通を中心とした企画行政が長く、七転八倒の日常からむしろ健康を度外視する人間の一人でした。年に1度の人間ドック健診では、メタボとの宣告を受け、暗い気持ちであおり人間ドックセンターを後にした経験しかありません。

そんな私がなぜ青森県総合健診センターに来たのか、自分なりにその答えが見えてきたような気がします。毎日汗をかき駐車場で車を誘導し、受付で問診票や検体をチェックし、私のように不安だらけで待合室にいる受診者に笑顔で接している職員たちを見たときです。ここは“不安と恐怖の施設”ではない、地域住民に健康とよこびを与えることを最大の使命とした“天国のような施設”ではないか！と感じました。

これまで仕事を理由に健康を度外視してきた、本県短命県の元凶ともいえる私が、ヘルスリテラシーを理解し、真の健康と生きるよこびを手に入れてこそ、青森県総合健診センターが本県における脱・短命県を担うトップランナーであるという証（あかし）になるのだと信じてやみません。自らが先頭に立ち、より一層の発展に向けて努めてまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



専務理事・事務局長
石橋 豊